

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

# 経営者への活きた言葉

税理士法人 優和

TEL 03-3455-6666  
FAX 03-3455-7777

## 経営者への活きた言葉

### リーダーに必要な資質はオーナーシップと大局観 宮内 義彦 (オリックスシニアチェアマン)

1. リーダーに必要な資質で、あえて精神的なもので引っ張り出すと、オーナーシップです。つまり、自分が全ての責任を負って目標の達成を目指すということです。言葉はよくありませんが、「(会社は)自分のものなんだ」と思わないといけません。対極にあるのが、2期4年などを無事に勤め上げるという、お役目を果たせばいいというものです。これではダイナミックな動きは出てきません。
2. 社長の任期中(例えば、2期4年)に、合併などで足跡を残すことはあるかもしれませんが、ほとんど花は開かないものです。トップの仕事とは、過去の功績で食べさせていただきながら、次の世代にもっと大きなものを残していくこと。そこでオーナーシップを持って組織を引っ張っていけば、子孫に美田を残すことができます。
3. オーナーシップを持つということは、サラリーマン社長では難しいです。大それたことをやろうとすれば、過去の否定につながります。リーダーに備えておくべきことはマクロ感です。世の中の大きな動きを見誤らない大局観が必要です。  
(参考:「週刊ダイヤモンド」2018年9月22日号)

## 経営者のための理念・哲学

### 考えが実現できる時を探しておく

#### 梶田 隆章 (東京大学宇宙線研究所所長、 ノーベル物理学賞受賞)

1. 研究に対する根本の考え方を小柴昌俊(2002年ノーベル物理学賞受賞)先生から教わりました。小柴先生はよく私たち学生に対して、「常に考えて、自分の考えが実現する時を常に探しておくんだ」と言っていました。
2. また、こういう言葉も繰り返していました。「俺たちは国民の血税を使わせてもらって、夢を追っているんだ。だから業者の言い値でものは買うな。国民の血税を無駄にしたら申し訳ない」。国民の税金を使わせてもらっているのだから、一旦研究を始めたら必ず成果を出すんだという強い思いは、私の中に確実に受け継がれています。  
(参考:「致知」:2018年11月号)

## 海外事情

### 企業が上場しなくなった理由(米国)

1. 米国では、上場企業の数が長期間にわたって減少している。理由としては煩雑な事務手続き、終わりのない情報開示、絶え間なく注がれる世間の視線。これらの要素によって、上場企業はあまりに大きな負担を強いられる。だが真の原因はこれらではない。スタートアップが上場しない主要な理由は、多くの企業にとってもはやその必要がないことなのだ。
2. 資本市場の供給サイトで起きた変化がこれを促した。1990年代は専門的なベンチャー・キャピタル以外に資金を用立ててくれる存在はなかった。だが現在は、プライベートエクイティ企業は現金をふんだんに抱えている。政府系ファンド、ヘッジファンドしかり、ファミリーオフィスしかり。年金ファンドも同様の志向を持つ。この変化の源流は、1996年全米証券市場改善法が施行され、投資家の資金を集めて大型ファンドの設立が容易になった。

(参考:「日経ビジネス」2018年10月8日号)

## 古典に学ぶ

### 大なる立志と小さい立志は常に調和する

(解説) 何人でも時々事物に接して起る希望なんびとがあろうが、それに対してどうかしてその希望を遂げたいという観念を抱くのも一種の立志で、余がいわゆる小さな立志とはすなわちそれである。また小さな立志はその性質上常に變動遷移するものである。つまり大なる立志と小さな立志と矛盾するようなことがあつてはならぬ。  
(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)